

深まった地域の絆

四日間の「家族」の毎日は、今でも楽しい思い出として残っている。「家族」とは、一昨年、秋田わか杉国体で縁あって我が家に民泊した宮城県のバドミントン選手、監督の「家族」のことだ。あの頃の近所の人達の交わされる言葉は決っていた。「ままこしゃしてきたが。」「してこね。それどころでねくて。何と早く会場さ行って応援しねば。」

朝起きて、ご飯、洗濯、仕事とあたり前のような日常生活がこの四日間は、応援ありきで、地域の皆は選手の応援こそが生活のすべてになってしまった。何かに向かう時、秋田県人の人情の深さ、やさしさが脈々と息づいていることを強く感じた数日間でもあった。また、地域の皆の熱狂的な応援を受け、選手達も期待に充分に応えてくれた。

礼儀正しく、さわやかに帰っていった選手達は、私達に勝敗以上に大きなものを残していったことに気づいた。それは選手との心の交流が生まれただけでなく、国体を機に地域の皆の心の交流が深まったことは確かだと思っている。



伊藤 朱美
(石神)

「共に歩んだ五年間」

美郷町五周年、おめでとうございます。

美郷町が誕生した年は、折しも私が家業を継ぐために実家へ帰って来た年でもありました。

以前は、隣町村という感覚での会話も、今ではお互いの地域の話や町行事等の共通の話題で自然に盛り上がるようになってきました。

そして、私も美郷町という大きなフィールドを得て、かねてから構想していたジャズオーケストラを結成出来、今年は町の協力もあり、美郷町内の有志による実行委員会を立ち上げ、友好都市である東京大田区の皆様との友好交流ジャズコンサートを開催し、町内外から沢山のお客様に来ていただき、大成功を納めることが出来ました。

美郷町の歩んだ五年間は、融和と協調であったと思います。この素晴らしい風土を生かし、行政と地域住民が一体となって、これからも「美しい郷」を発展させ、内外へアピールしていこうではありませんか。



扇田 亮
(荒町)

膨らむ期待……。

五歳になつた美郷町

愛デアを！

あつと言う間に5年、合併後も違和感なく過ごせたことは、役場を中心とした関係者のご労苦に「お疲れ!」の一言に尽きます。永遠のテーマでもある美郷という町名は大変気に入っています。トップ・ギヤに入ろうとする美郷町、これからが“町民を守る”という本番になります。若い時仕事で仙南村に行った時のこと、ある年配者が「年寄りには湯っこ、若衆には村営酒場を作ってくれるどしゃ」と生き生きと話してくれたことが思い出されます。時代も変わり財政難な今では、ハコ物は無理としても気持ちだけは皆が共有できる光があればいいな—と思います。金も物も無いとすれば、ある物は自分達の知恵のみ、ここは開き直って町民の知恵を拝借するしかないと思います。町からの情報は多いが、町内会からの意見集約するパイプの細いのが気になります。移動町民室等の施策もありますが、各町内会から検討した意見を出し合うことができる体制は、町内会の元気にもつながるし、町全体の活気につながる第一歩と思う。皆で元気の出る愛デアを持ち寄りたいものです。



奥山 順治
(塚)

「広がる輪」

美郷町合併五周年おめでとうございます。

私の中で合併してからの五年間は、振りかえってみると、とても時間が短く感じました。それは、この五年間にとても沢山の出来事があったからです。

その中で特に心に残っているのが平成19年に行われた「国体」です。私もお手伝いさせていただきました。それと、地域を「元気にしよう」という主旨で行われている「地域づくりマスター会(ぜんまい座)」に参加させてもらい、色々な人達との輪が広がり、今迄の自分が知らない地域の人達の話が聞けたり、また数多くの交流が持ててうれしく思っております。

私には、子供が二人います。長女が中学三年生の時、学校が統合します。子供達には、「友だちが増えるよ。友だちの輪が広がるよ。」と話しています。いずれ、子供達も親元を離れる時が来ます。その時は、「美郷」で生まれ育った事を誇りに成長していつてもらいたいと思います。そして、私も「美郷」に住んでよかったと思える町を胸に、これからも一生懸命がんばっていきたいと思います。



高橋 紀子
(千屋北部)